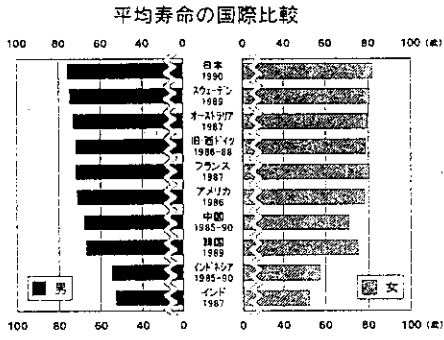
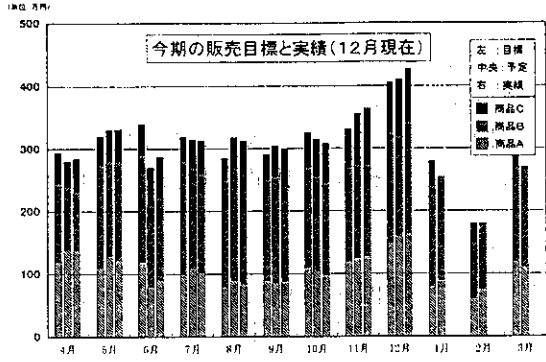


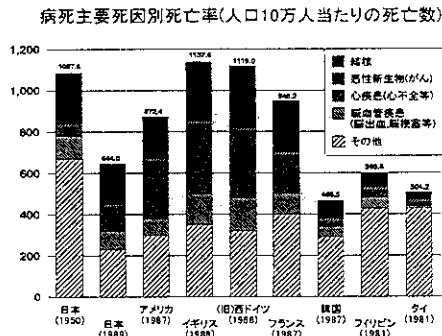
①



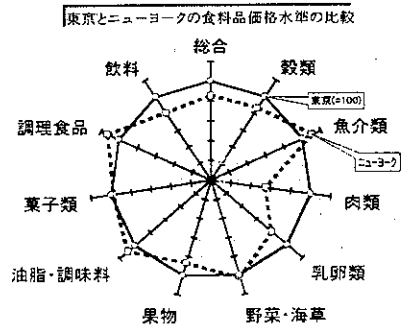
①



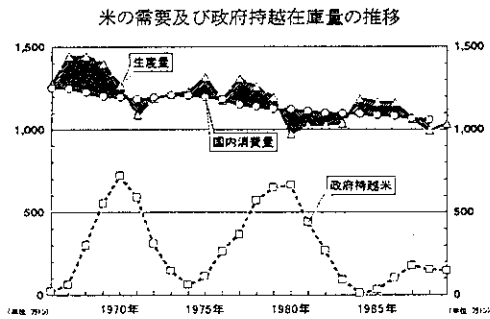
①



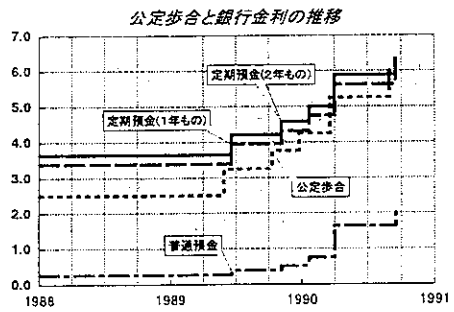
②



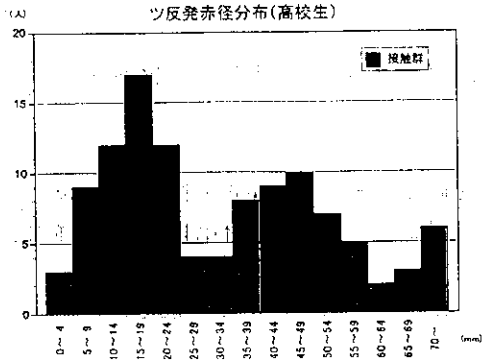
③



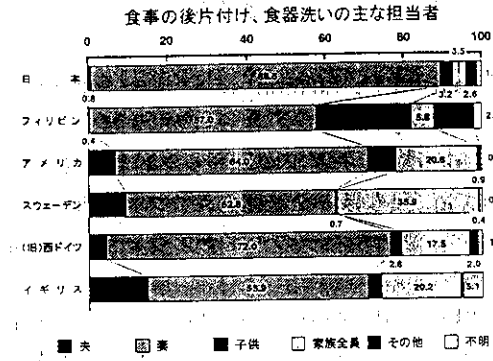
④



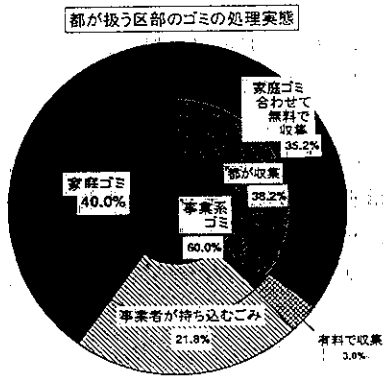
⑤



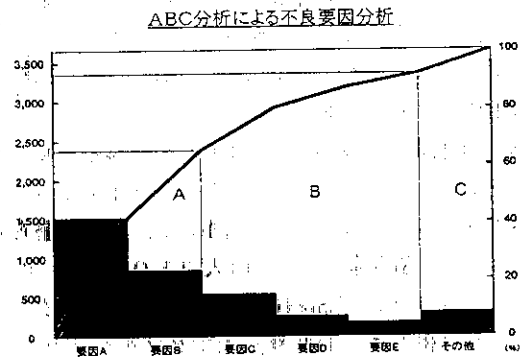
⑥



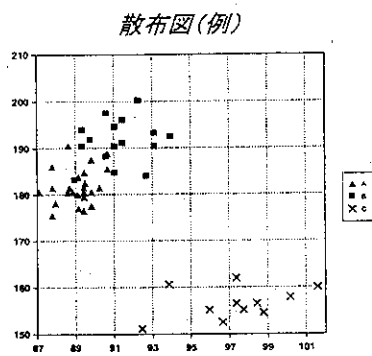
⑦



⑧



⑨



(6) 演習 ～ グラフ作成 ～

* Microsoft の Excel 97 で、基本的なグラフを作成しましょう。

<グラフウィザード>を利用し、ワークシート上のデータをグラフ化します。

(準備: kenshu-Fh_hokenn_sv ショートカットをクリックし、フォルダ内の「グラフ練習.xls」)
を自分のデスクトップにコピーします

- ①「グラフ練習.xls」をダブルクリックして、Excel を起動します。
 - ②グラフの元になるデータ範囲をマウスでドラッグして選択し(合計欄や、表外のタイトル・注意書き等の文字は避ける)、ツールバーの<グラフウィザード>ボタンをクリックする。(この場合はB3～Y5を範囲指定する)
 - ③グラフ種類(C)で「横棒」を選択し(サンプルを表示する(V)ボタンを押すとイメージが見られる)、<次へ>ボタンをクリックする。気にせず<次へ>ボタンをクリックする。
 - ④グラフタイトル(T)に「結核罹患率及び有病率(平成8年)」、Y/数値軸(V)に「(人口10万対)」と記入し、<次へ>ボタンを押す。グラフの場所を聞いてくるが、同じシート上でよければオブジェクト(O)がチェックされていることを確認して<完了>ボタンを押す。
 - ⑤横長で項目数が足りない`期待はずれ`のグラフができますが、ここから自力で編集します。まず、グラフ全体(グラフエリアのサイズ)を縦長にします。下辺のサイズ変更ハンドル(—■—)にマウスポインタを合わせてポインタの形が◀に変わったら、変更したいサイズまでドラッグする。
 - ⑥プロットエリア(グラフが入っている箱)をクリックし、右辺のサイズ変更ハンドル(—■—)をドラッグしてグラフエリアの右辺近くまで広げます 有病率 罹患率 の凡例表示をドラッグしてプロットエリアの右上の方に持っていく。
 - ⑦X/項目軸の方にマウスポインタを移動し項目名の上でダブルクリックすると「軸の書式設定」ができるので、<フォント>タグのサイズ(S)を「8」に、<メモリ>タグの軸を反転する(R)にチェックを入れて、<OK>ボタンをクリックする。同様に、Y/数値軸の数値上でダブルクリックし<フォント>タグのサイズ(S)を「8」に、数値軸ラベル「(人口10万対)」上でダブルクリックし<フォント>タグのサイズ(S)を「6」に、グラフタイトル「結核罹患率・・・」上でダブルクリックし<フォント>タグのサイズ(S)を「10」に、凡例項目「罹患率・有病率」上でダブルクリックし<フォント>タグのサイズ(S)を「8」にしてみましょう。数値軸ラベル「(人口10万対)」は、ドラッグして数値軸の右端の方へ移動する。
 - ⑧もしもこの段階で、項目軸の項目(この場合は保健所名)がすべて表示できていない場合は、グラフエリアまたはプロットエリアを少しずつ縦長にして、すべて表示できるように調整する。
 - ⑨Y/数値軸の数値上でダブルクリックし、<目盛>タグの最大値(X)を「110」に、目盛間隔(A)を「10」に変更し、<表示形式>タグの小数点以下の桁数(D)を「0」にして<OK>ボタンをクリックする。
 - ⑩棒の幅が細くて間隔が大きいようなのでそれを調整する。グラフ要素(棒の部分のどこか)をダブルクリックし、<オプション>タグの棒の間隔(W)を「50」くらいにして<OK>ボタンをクリックする。
 - ⑪なお、グラフ内に数値を表示したい場合は、<データラベル>タグで値を表示する(V)にチェックを入れればよい(「罹患率」「有病率」それぞれの棒で)。ダブルクリックしてフォントサイズを調整する。
- これで、おおよそ「棒グラフの作成」は終わりのはずですが、私たちは未だに`白黒・印刷物`で仕事をする人が多いので、このままプリントアウトすると、グラフの凡例が区別できなくなります(多少の濃淡はありますが)。そこで凡例を修正します。
- ⑫グラフ要素(棒の部分のどこか)をダブルクリックし、<パターン>タグの「輪郭」の色(C)で「黒」を選び、「領域」の色(O)でも「黒」を選び、<OK>ボタンをクリックする。まっ黒の延べ棒になります。
 - ⑬もう一方のグラフ要素(棒の部分のどこか)をダブルクリックし、<パターン>タグの「輪郭」の色(C)で「黒」を選び、「領域」の色(O)でも「黒」を選び、さらに塗りつぶし効果(I)ボタンをクリック、背景(B)で「白」を選び、パターン(T)で「薄目のパターン(お好みで)」を選んで<OK>ボタンをクリックする。そして、もう一度<OK>ボタンをクリックする。
 - ⑭できあがったグラフをながめて、位置やサイズはそれぞれ微調整してみます。凡例も気に入らなかつたら別のものを試してみます。
 - ⑮自分の主張が出ているか、見やすいグラフになっているかどうかを検討します。

以上です。お疲れさまでした。

ちなみに、折れ線グラフや他のグラフも<グラフウィザード>を利用して同様に作成できます。
ただしそれぞれのグラフで、構成要素のパターンが違うので、設定や微調整も少しずつ異なります。

折れ線グラフを作成します。

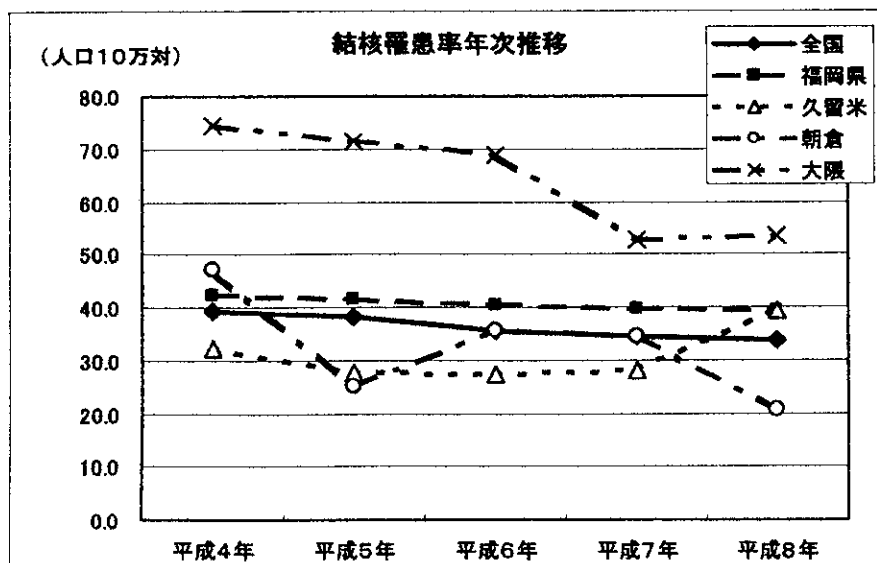
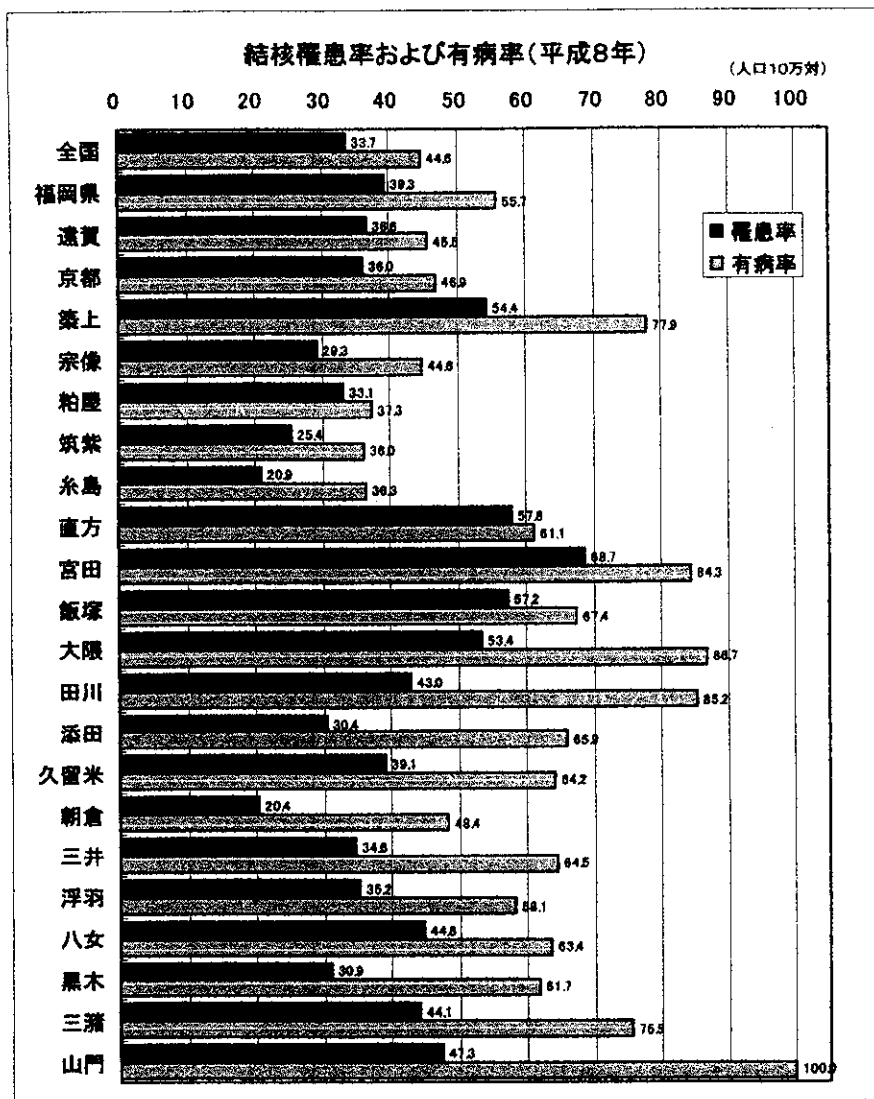
- ①グラフの元になるデータ範囲をマウスでドラッグして選択し、ツールバーの<グラフウィザード>ボタンをクリックする。(この場合はB9~G14を範囲指定する)
- ②グラフ種類(C)で「折れ線」を選択し<次へ>ボタンをクリックする。<データ範囲>タグの系列:で列(L)にチェックを入れて<次へ>ボタンをクリックする。
- ③グラフタイトル(T)に「結核罹患率年次推移」、Y/数値軸(V)に「(人口10万対)」と記入し、<次へ>ボタンを押す。グラフの場所を開いてくるが、同じシート上でよければオブジェクト(O)がチェックされていることを確認して<完了>ボタンを押す。
- ④全体的に、すこしグラフエリアを広げます。
- ⑤X/項目軸の方にマウスポインタを移動し項目名の上でダブルクリックすると「軸の書式設定」ができるので、<フォント>タグのサイズ(S)を「8」にして、<OK>ボタンをクリックする。同様に、Y/数値軸の数値上でダブルクリックし<フォント>タグのサイズ(S)を「8」に、数値軸ラベル「(人口10万対)」上でダブルクリックし<フォント>タグのサイズ(S)を「8」に、グラフタイトル「結核罹患率・・・」上でダブルクリックし<フォント>タグのサイズ(S)を「10」に、凡例項目「罹患率・有病率」上でダブルクリックし<フォント>タグのサイズ(S)を「8」にしてみましょう。
- ⑥数値軸ラベル「(人口10万対)」上でダブルクリックし<配置>タグの方向を「0度」にして<OK>ボタンをクリックする。数値軸ラベル「(人口10万対)」をドラッグして数値軸の上端の方へ移動する。
- ⑦プロットエリア(グラフが入っている箱)をクリックし、左右辺や上辺のサイズ変更ハンドル(—■—)をドラッグして、グラフエリアの周辺近くまで広げます。凡例表示をドラッグしてプロットエリアの右上方に持っていく

これで、おおよそ「折れ線グラフの作成」は終わりのはずですが、このままプリントアウトすると、やはりグラフの凡例が区別できなくなります。

そこで凡例を修正します。

- ⑧折れ線一つ(例えば全国)にマウスポインタを合わせてダブルクリックする。<パターン>タグの「線」の色(C)で「黒」、太さ(W)で「中太線」を選び、また、「マーカー」の前景(F)と背景(B)で「黒」を選び、サイズ(Z)を「6」にして、<OK>ボタンをクリックする。
- ⑨他の折れ線も同様に、色(C)を「黒」に、太さ(W)をやや太くしながら、それぞれ「線」のスタイル(S)やマーカーのスタイル(S)を変えることによって、他の折れ線と区別できるように工夫する。
- ⑩できあがったグラフをながめて、位置やサイズはそれぞれ微調整してみます。スタイルも気に入らなかつたら変更します。
- ⑪自分の主張が出ているか、見やすいグラフになっているかどうかを検討します。

以上で終わりです。





データベースの活用

1998.12.

保健所には最近いろんなデータベースが入ってきていますが
入力作業だけでは、もう一つおもしろくありません。

データを私たちに活用できたらもう少し楽しくなるかもし
れません。

この冊子は、保健所のデータベースのほとんどが利用している
MS-ACCESSの簡単なプログラムを自分で作成しながら、データ
ベースに親しみを覚えていただくものです。

難病患者さんのデータベースを作成する事を例示としていますが
他のいろんなデータベースを作成したり、今あるデータベースを
覗いたりいろんな活用の一歩になれば幸いです。

久留米保健所 平田輝昭

ACCESS の機能は非常に豊富ですが、解説書から入門するとすぐにいやになってしまいます。そこで、ここでは、実務を中心に考えながら組み立ててみました。

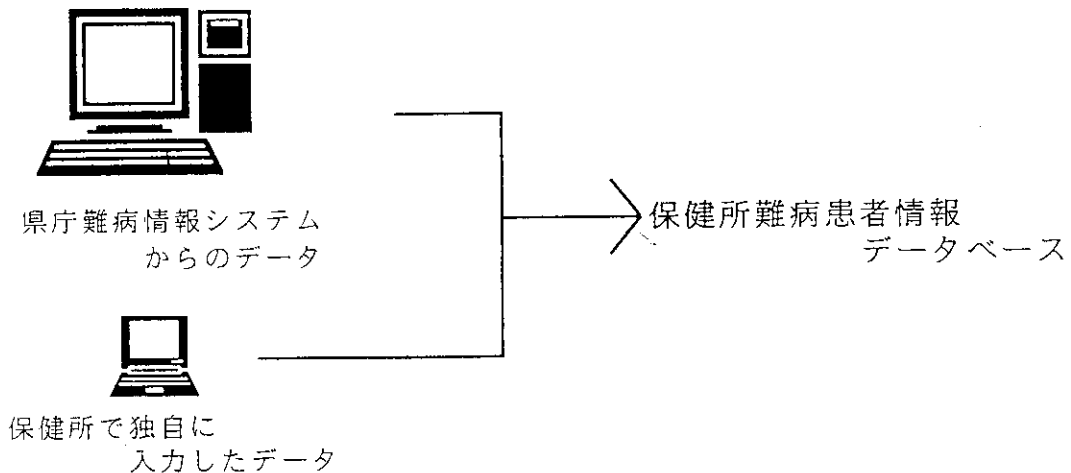
――― 県庁難病情報を活用しての
保健所難病患者情報の構築を例として―――

1 概念図

大まかな考え方を図示しました。

県庁で蓄積されている医療費の支払いを主目的としたデータベースのデータを保健所単位で分けてもらい加工します。

不足するデータを保健所で別に調査・入力し、前者のデータと関連づけを行ってあたかも一つのデータベースのように利用しようというものです。



2 作りたいプログラム

(1) 起動画面 (メインパネル)

: プログラムを起動すると

メインパネル画面が現れる。

The main panel interface is a rectangular window titled '保健所難病システム メインパネル'. It contains two buttons: '検索' (Search) on the left, labeled with a circled 1, and '終了' (End) on the right, labeled with a circled 2.

①、②はボタン

①の検索ボタンを押すと検索の画面が現れる。

②を押すとプログラムは終了する。

(2) 検索

The search interface is a rectangular window titled '検索'. It contains three input fields: '氏名' (Name) with a circled 1, '病名' (Disease Name) with a circled 2, and '住所' (Address) with a circled 3. At the bottom, there are two buttons: '開始' (Start) with a circled 4 and 'もどる' (Return) with a circled 5.

①②③ に入力後、④の開始ボタンを押すと検索結果の画面が現れる。

⑤を押すとメインパネルに戻る。

②は病名リストから選べるようになる。

(3) 検索結果

検索結果

氏名	性	住 所	病 名
平田	男	久留米市 . . .	ヘルペツト病
山田	女	久留米市 . . .	ヘルペツト病
⑤ ▲ 田中	男	大刀洗町 . . .	ヘルペツト病
中田	男	久留米市 . . .	ヘルペツト病
田口	女	久留米市 . . .	ヘルペツト病
田口	女	小郡市	ヘルペツト病
田川	男	久留米市 . . .	ヘルペツト病
田川	女	小郡市	ヘルペツト病

- ⑤のマークを検出したい患者にあわせ、①個人票ボタンを押すと個人票が開く。
- ②の一覧表ボタンを押すと検索結果の一覧表が印刷される。
- ③の宛名ボタンを押すと宛名書きが印刷される。
- ④のボタンを押すと「検索」画面に戻る。

(4) 個人票

個人票

氏名 性別

生年月日 年齢

住所

病名

病院

保健所情報

訪問記録 etc

- この画面で新たな情報の入力や修正を行う。
- ①を押すとデータの印刷。
 - ②を押すと検索結果に戻る。
 - ③を押すとプログラムを終了する。

以上のプログラムを一気に作成していただきます。
 手順どおり進めれば、そう難しいことはありません。その後自分でいろんなオプションを作成してください。

2 新たなデータベース作成への手順

以下の手順を進めます。

- (1) 県庁の難病情報システムより入手した テキスト形式の患者データを ACCESS 形式のデータに変換します。
 - (2) ACCESS のフォーム自動作成プログラムを用いて(1)で変換したデータを 1-(4)のようなフォーム上にあらわせるようにします。(フォーム「F_個人票」の作成)
 - (3) 保健所で独自に入力するデータのテーブルを作成します。さらにこれをフォームにします。(テーブル「T_個人追加表」およびフォーム「F_個人追加票」)
 - (4) (2)で作成したフォームに改良を加え、(3)で作成したフォームを取り込み結合させて一つのフォームに作り上げます。
 - (5) システム起動時のフォーム「F_メインパネル」および検索のためのフォーム「F_検索」を作成します。
 - (6) 「F_メインパネル」のボタン操作のマクロを作成します。
 - (7) 検索の条件にあったデータを検出するためのクエリー「Q_検索」を作成します。
 - (8) 検索の結果を示すフォーム「F_検索結果」を作成します。
 - (9) フォーム「F_検索」のボタン操作のマクロを設定し、「F_検索結果」と接続します。
 - (10) 検索結果の一覧表印刷のレポート「R_一覧表」を作成します。
 - (11) 検索結果のラベル印刷のレポート「R_ラベル」を作成します。
 - (12) フォーム「F_検索結果」の ボタン作成とボタ操作の操作のマクロを設定します。
 - (13) フォーム「F_個人票」の ボタン操作のマクロを設定します。
 - (14) 年齢を表示できるようにするため生年月日のテキスト型データを年月日型のデータに変換する操作を行います。
- － 付録－ 年齢計算、病名リスト

3 具体的方法

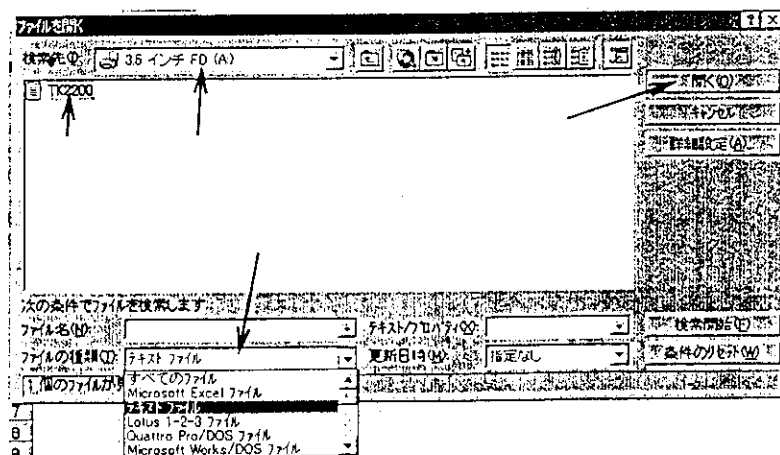
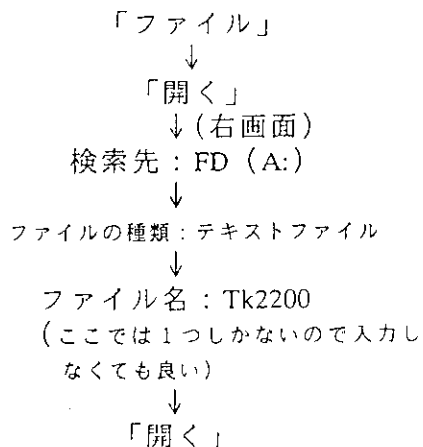
- (1) 県庁より入手した難病情報システムからのデータを ACCESS のデータに変換します。

①県庁よりのデータはテキスト形式です。そのまま ACCESS のデータに変換することもできますが、ここではいったん Excel のデータに変換して、その後 ACCESS のデータに変換することにします。(その方が処理が容易かと思えます。)

そのために、まず Excel のデータへ変換します。

Excel を立ち上げ「ファイル」→「開く」の操作を行うと次の画面が現れます。

そこで、次のように操作を行い県庁よりのテキスト形式データ (Tk2200) を呼び出します。



テキストファイルウィザード (1/3)画面:

「カンマやタブで区切り...」を選択

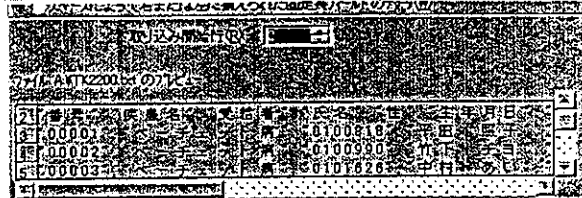
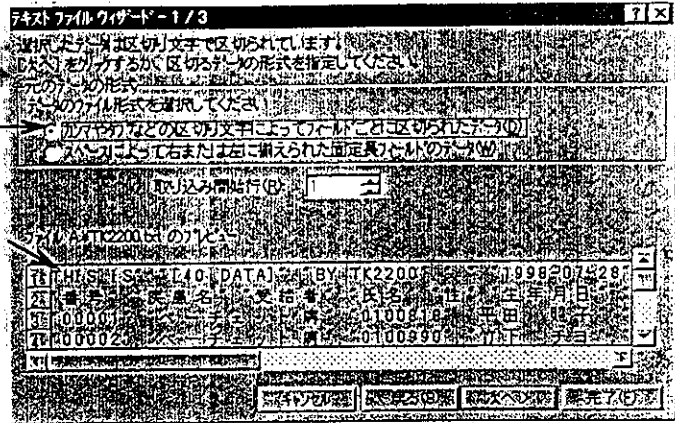


「取り込み行」を 2 とします。

下のプレビューの 1 行目 "This is", "[40 DATA] が消えます。県庁よりのテキストデータには 1 行目に説明書きが入っているのですが、これからの処理には、むしろ邪魔になりますので削除します。



「次へ」



テキストファイルウィザード (2/3)画面

「区切り文字」: 「カンマ」を選択 (カンマだけ)

「引用符」: ” (そのまま)

下のプレビューでデータの区切りに縦線入ります。



「完了」

*テキストファイルウィザード (3/3)ではフィールドの形式等进行操作できるのですがここでは使用しません。



変換後のデータが現れます。



「ファイル」



「名前を付けて保存」



保存先: FD(A):



ファイル名: 難病



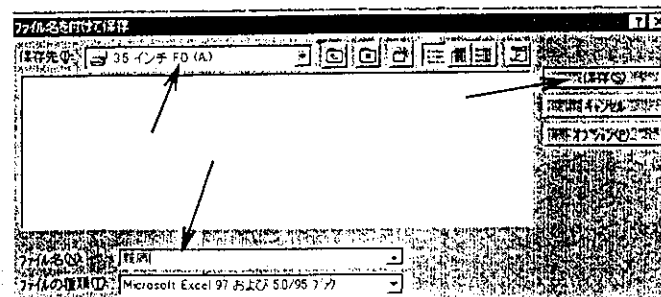
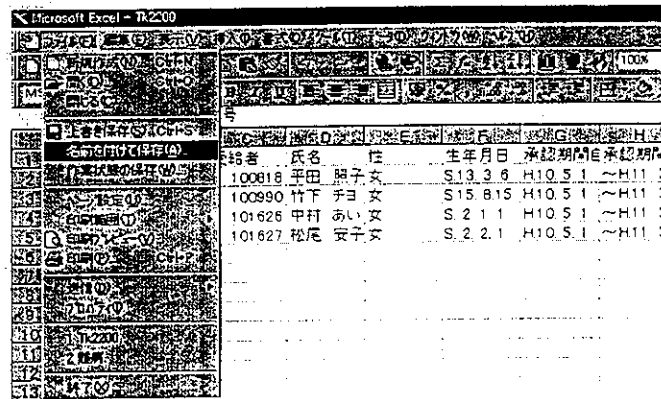
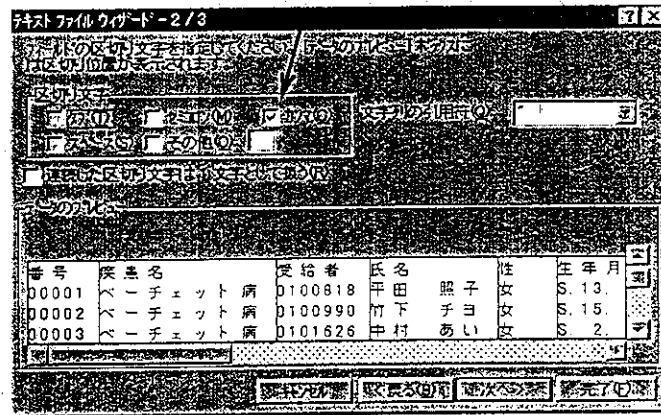
ファイルの種類: Excel97



「保存」



Excelを終了

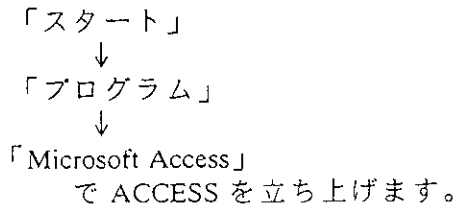


これで、Excel のデータへの変換が終了しました。

次に、ACCESS のデータに変換します。

② ACCESS の新規データベースを作成します。

* ACCESS は、Excel と異なり、データを取り扱う前にデータを保存するファイル名を決めておく必要があります。



Access の最初の画面で
新しいデータベースの作成の
「空のデータベース」を選択



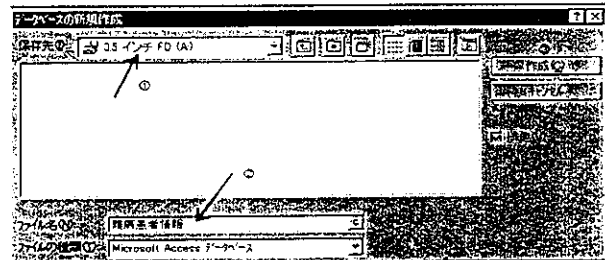
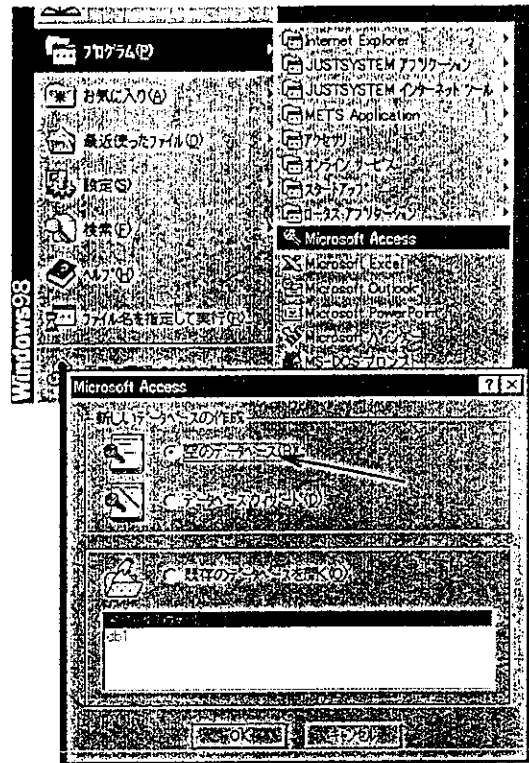
新たに作るデータベースの名前を入力します。

保存先：FD (A:)

↓
ファイル名：「難病患者情報」とします。

↓
ファイルの種類：ACCESS データベース
(そのまま)

↓
「作成」



③ データ変換を開始します。

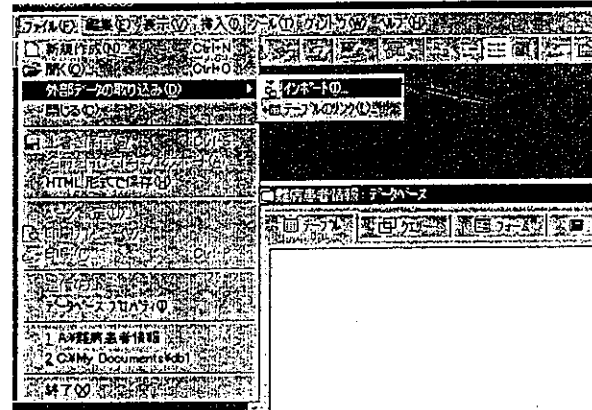
「ファイル」



「外部データベースの取り込み」



「インポート」



先ほど作った A: の Excel のファイル
「難病」をインポートします。

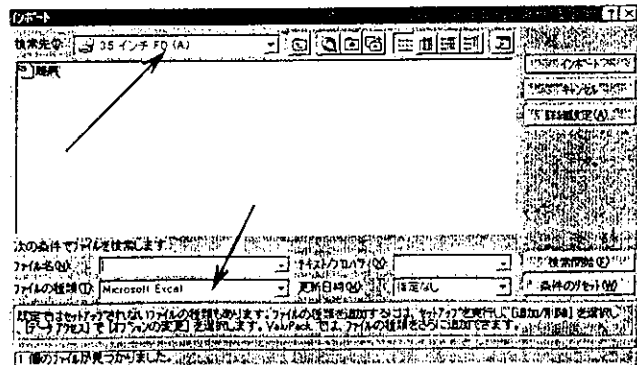
検索先：FD(A)

↓
ファイルの種類：「Microsoft Excel」

↓
ファイル名：「難病」

(1つしかないので入力しなくても良い)

↓
「インポート」

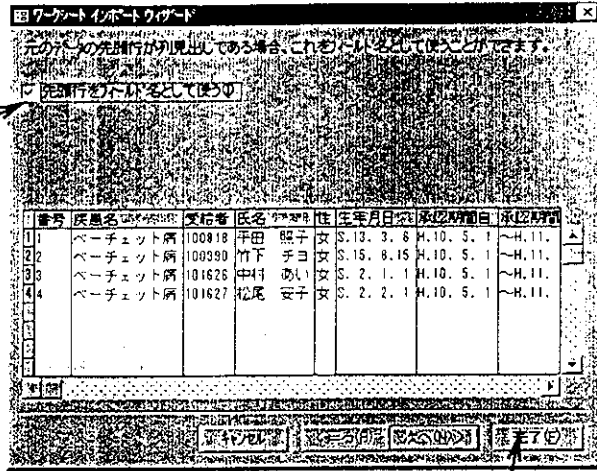


ワークシートインポートウィザード画面

「先頭行を...」をチェック



「完了」

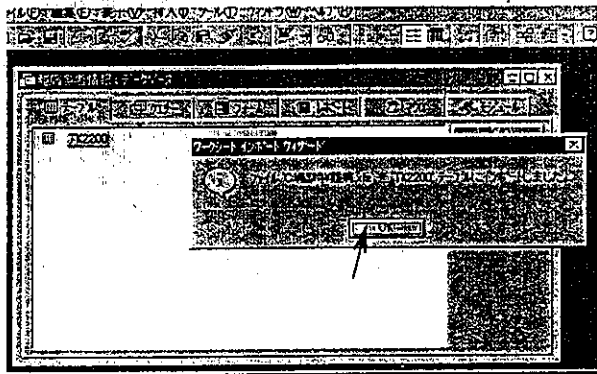


ファイル「Tk2200」が作成されました。

*これは、Excel のファイル名は「難病」でしたが、シートが、Tk2200の名前のままだったからです。このあとはそのまま Tk2200 を使って作業を進めます。



OK

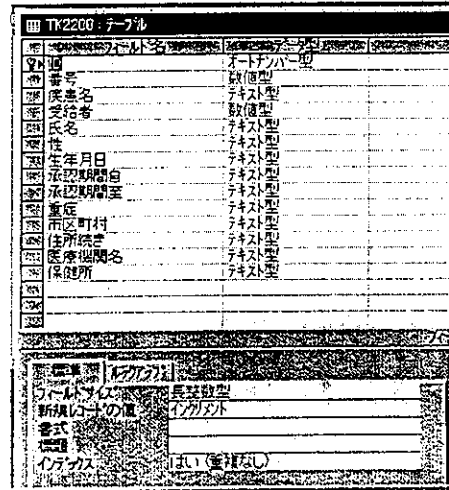


右の「デザイン」ボタンを押してみてください。Tk2200 の構造が左図のように現れます。

*この部分については市販のテキスト「初歩の Access」「Access 入門」等に説明詳しくついていますので、一冊自分で買って読んでみてください。

ここでは、インポートを使ったことで、自分で一からデザインを作成することを省略した訳です。

これで (1) は終了です。



(2) ACCESS のフォーム自動作成プログラムを用いて(1)で変換したデータをフォーム上にあらわせるようにします。(フォーム「F_個人票」の作成)

「フォーム」



「新規作成」



「フォームの新規作成画面」が現れます。



「オートフォーム：単票形式」



テーブル/フォームで Tk2200 を選択。(▼を押すと現れる)



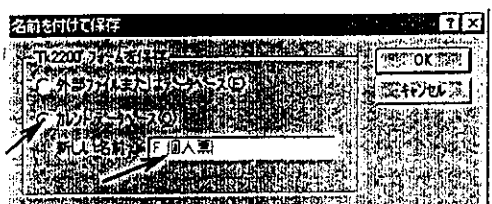
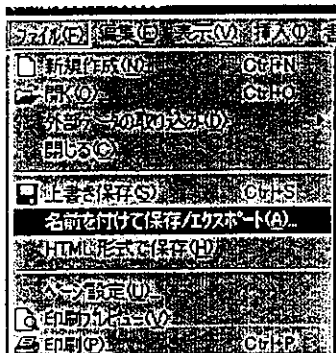
「OK」



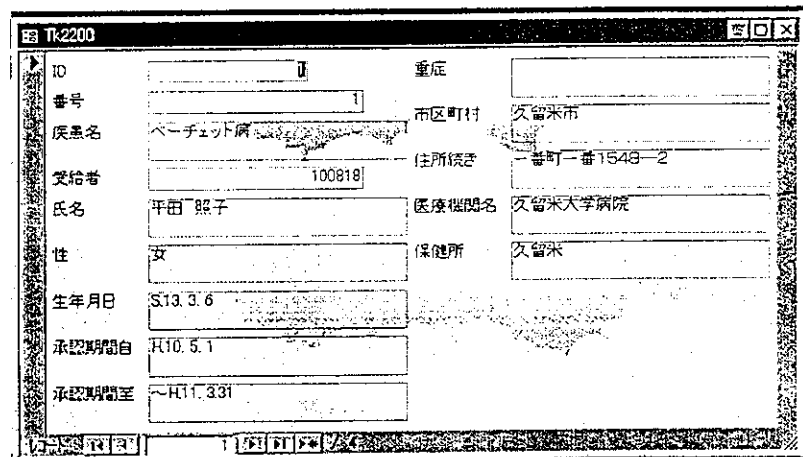
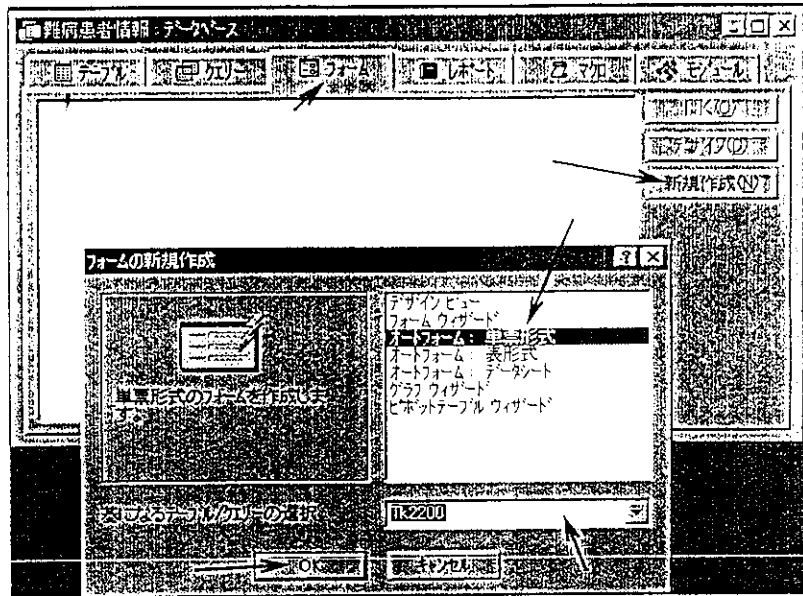
右のフォームが自動的に作成されます。

(ちなみに、オートフォーム：表形式等を選ぶとどのような画面になるか試してみてください。)

この状態はまだ画面に現れているだけです。保存する必要があります。



フォームの右下の矢印を適当にいじってみてください。少し構造が理解いただけると思います。



「ファイル」



「名前をつけて保存」



カントデータベースで「F_個人票」と名前を変更しましょう

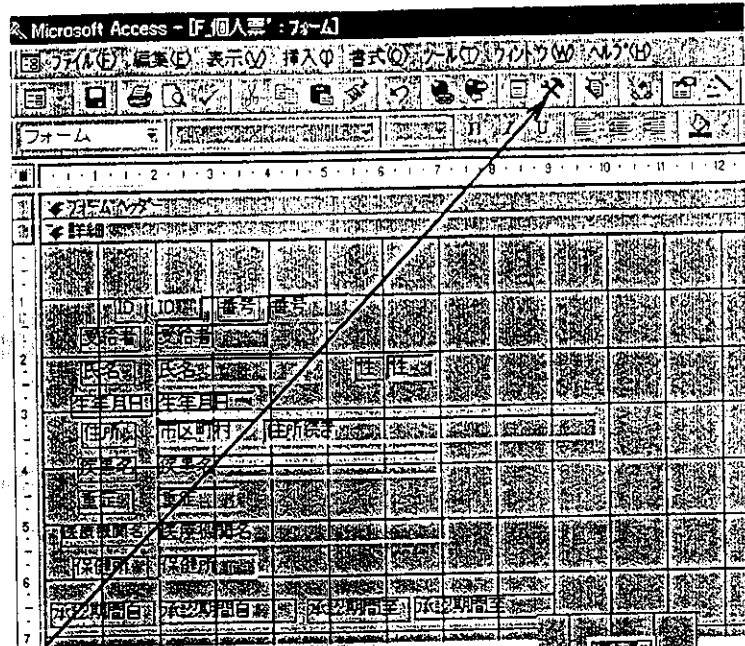
* F_とつけるのがこれがフォームであると一目で分かるようにするためです。




「OK」



そのままでは見にくいので、右図のようにアレンジしてみました。
この操作方法については、市販テキストを参考にいただければと思います。



さらに、タイトルを付けてみます。

ツールボックスのアイコン  を押し、
ツールボックスを開きます。

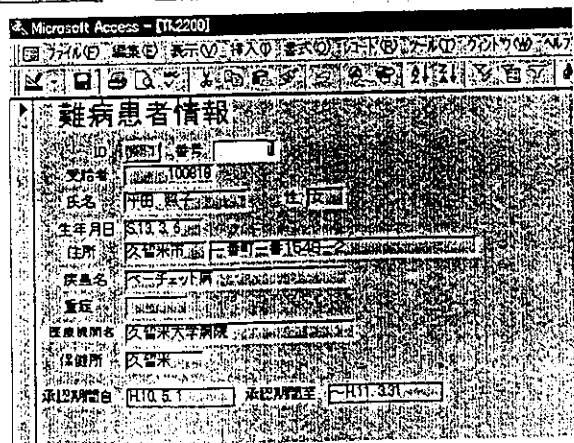
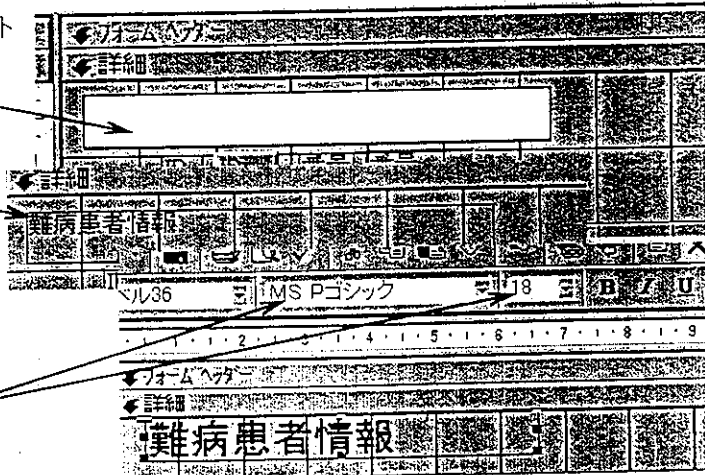
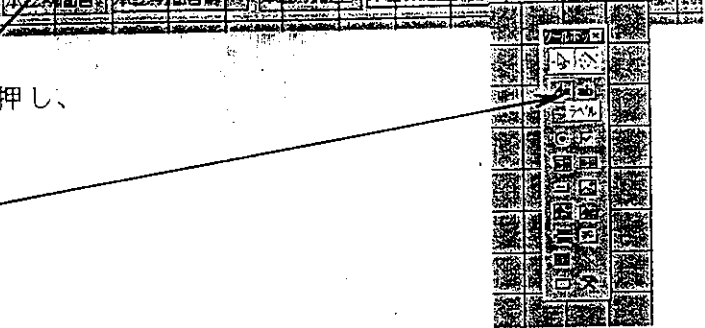
ラベルをクリック

マウスのボタンを押し続けてタイトルの入力位置を決め

文字の入力を行ってください。
ここでは「難病患者情報」と入力しました。

さらに文字のサイズや形を選び気に入ったものにしてください。

右のような形にできあがり了吗か？

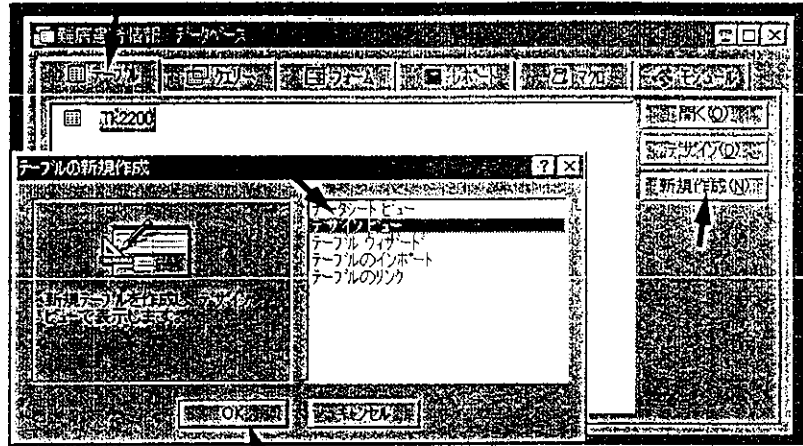
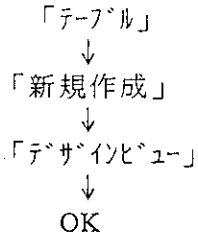


(3) 保健所で独自に入力するデータのテーブルを作成します。これをフォームにします。
 (F_個人追加票) *県庁とのデータの結合は患者番号を使います。

① 新たに入力するデータを、訪問相談活動に焦点を絞り次のように設定します。

相談月日	日付型	日付を入力します。
相談種別	文字型	訪問、来所、その他の種類に分けます。
相談内容	文字型	要点を記載することします。

テーブルの作成をおこないます。



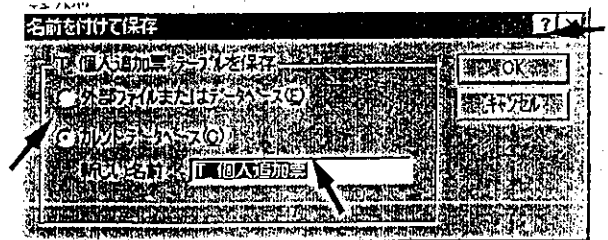
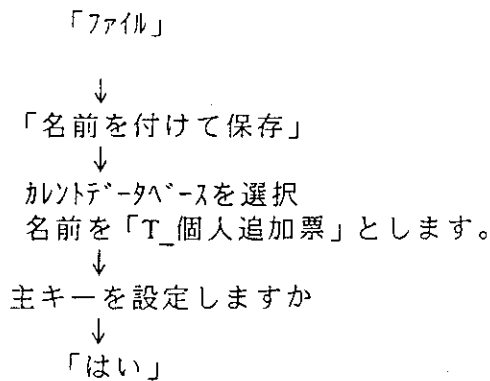
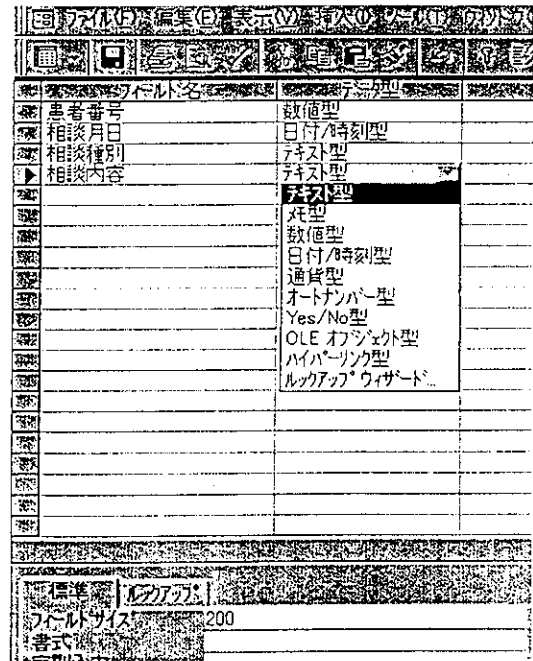
デザインビューのテーブルに
 フィールド名：患者番号
 フィールド型：数値型

フィールド名：相談月日
 データ型：日付/時間型

フィールド名：相談種別
 データ型：テキスト型

フィールド名：相談内容
 データ型：テキスト型
 右下のフィールドサイズは 200 (半角文字で)
 と入力します。

*半角、全角に注意



これで新しいテーブルができあがりました。

②次にこのテーブルを元にしたフォームを作成します。

訪問は、同じ人に対して複数回行われることを想定して、複数の訪問状況が一度に見れるようなフォームにします。

「フォーム」
↓
「新規作成」

今回は「フォームウザード」を使用してみます。
(フォームを作る方法はいろいろあるのです。)

テーブル「T_個人追加票」を選択

↓
「OK」

フィールドの選択で今回はすべて選択しますので、「>>>」を押します。

↓
すべてのフィールドが「選択されたフィールド」側に移ってきました。

↓
「次へ」

↓
「表形式」を選択

*ちなみに他の形式を選んだらどのようなものそいてみてください。

↓
「次へ」

↓
スタイルは「標準」を選択

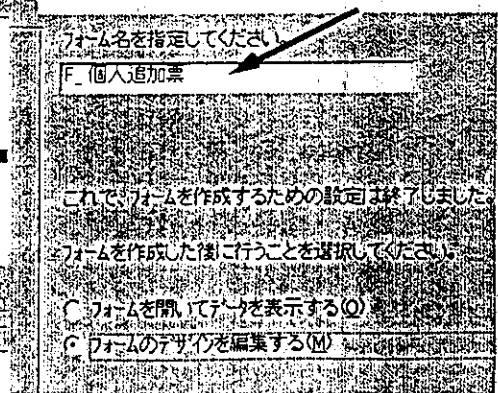
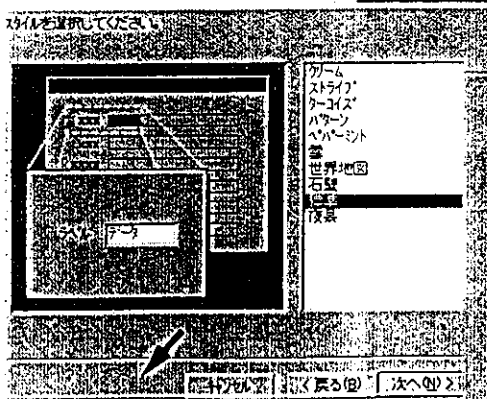
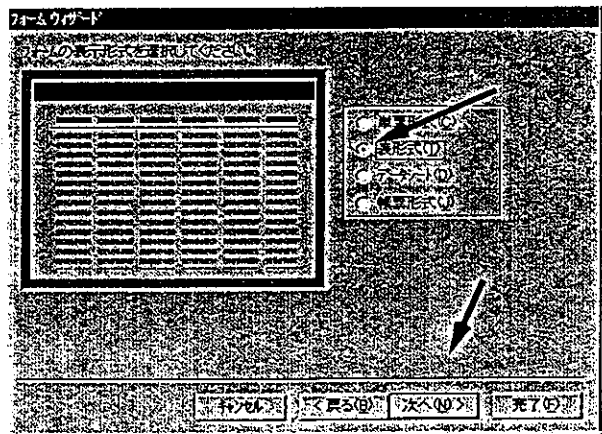
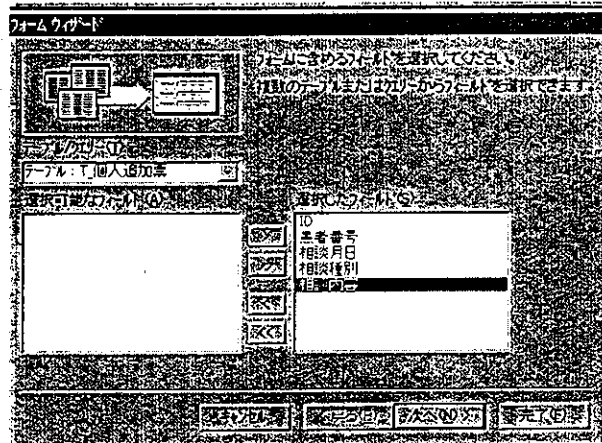
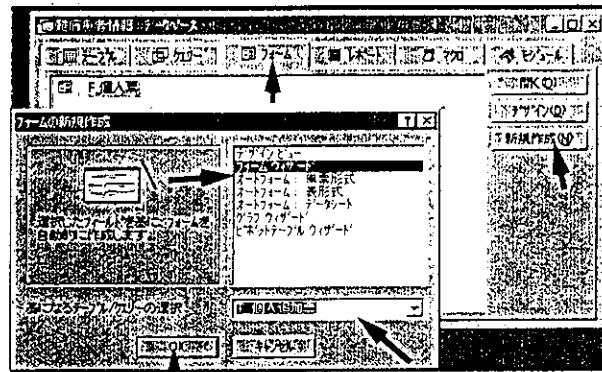
*ちなみに他の形式を選んだらどのようなものそいてみてください。

↓
「次へ」

↓
フォームの名前を
「F_個人追加票」
に変更。

↓
「デザインを編集」
を選択。

↓
「完了」



↓
 フォームのデザインを少々変える。
 (例えば患者番号は長くいら
 ないので短くする等)

↓
 保存する

*保存法としては、

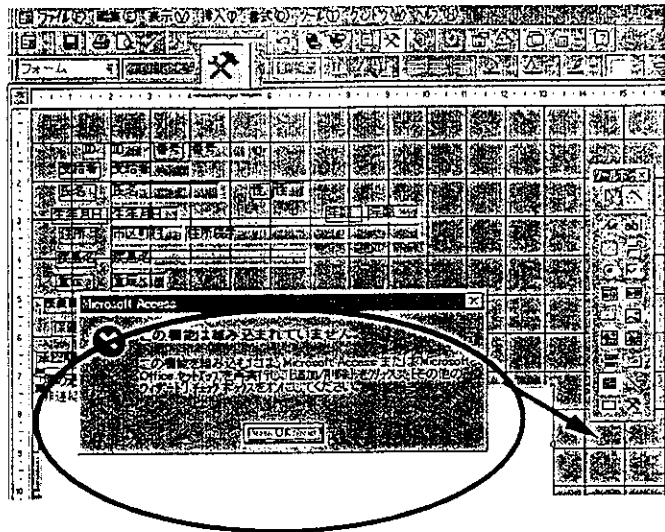
①右上「X」→「変更を保存する」 または②「ファイル」→「上書き保存」

↓
 (5) (2) で作成したフォームに改良を加え、(3) で作成したフォームを取り込み結合
 させて一つのフォームに作り上げます。

↓
 フォーム「F_個人票」→ 「デザイン」
 → 「ツールボックス」を開く

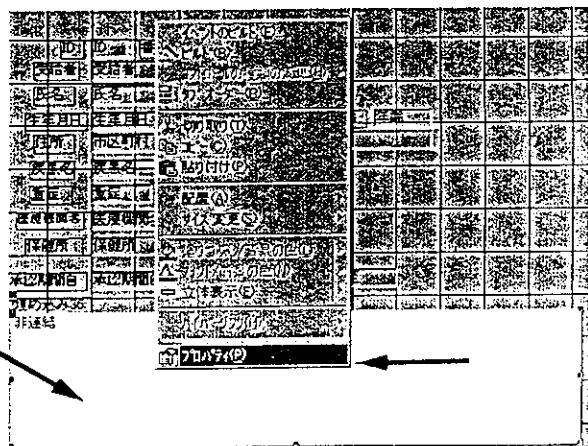
- ↓
- ① 「F_個人追加票」を「F_個人票」に
 サブフォームとして組み込む作業を行います。
 - (ア) 「F_個人票」に「F_個人追加票」
 を組み込むスペースを作ります。
 (デザインビューで下の空白を広くする)

(イ) ツールボックスの「サブフォーム/サブレポート」
 を押します。 そして、サブフォームを組み
 込む場所をマウス左を押し続け、離
 することによって指定します。



(ウ) おおむねの機械では「この機能は組み込
 まれていません」の表示がでる
 と思います。 → 「OK」を押してくだ
 さい。

(エ) 作成した「非連結」の空白部分をマウス
 右クリックし、表示画面の「プロパティ (性格)
 をクリックしてください。



(オ) プロパティの「名前」を個人追加票
 「ソースオブジェクト」をF_個人追加票
 「リンク子フィールド」を患者番号
 「リンク親フィールド」を受給者
 と書き込みます。

* 「F_個人票」の受給者と「F_個人追加票」の患者番号を結合
 させました。

↓
 (カ) 「ファイル」→「上書き保存」で保存します。


次にフォームビューで見てください。

(*)「患者番号」はすでに表示されています。


「相談日」「相談種別」「相談内容」を順に入力してください。


↓
カーソルが「相談月日」に移動した時点で


 が  に変わり、

さらに記録を始めると、

に変わります。

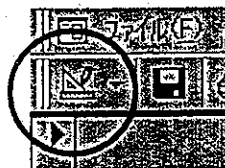
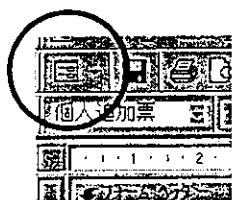
 は記録がないこと。

 はカーソルがこのレコード上にあること。

 は記録が開始されたことを表します。

相談月日	相談種別	相談内容
98/12/01	訪問	留守だった
ツバー	100818	

②「ビュー」アイコンをクリックして思いどおりに作成されているか確認してください。修正が必要な
ら、三角定規の「ビュー」アイコンをクリックしてデザインビューに戻り修正してください。

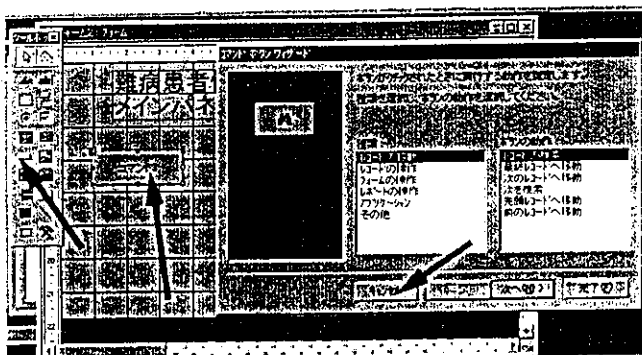
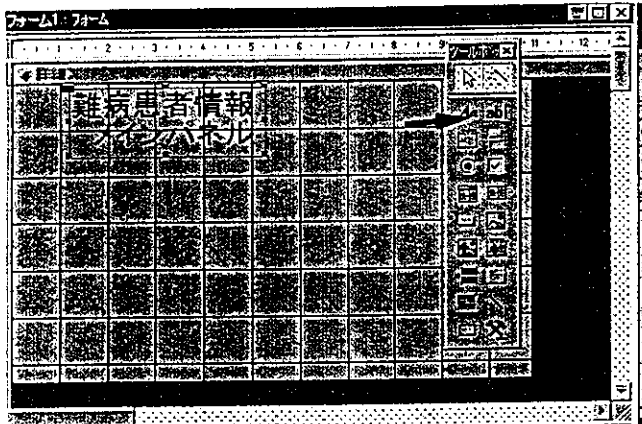
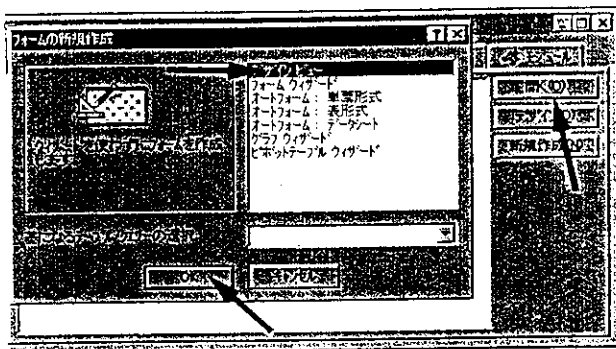
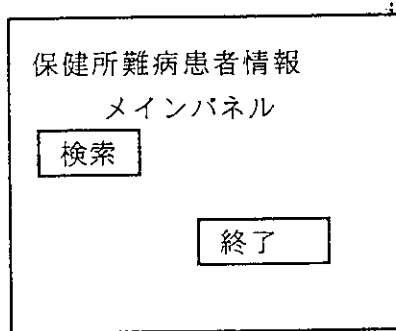


例：「埋め込み 32」の文字を取り除く
「サフフォーム」のサイズをあわせる。

(5) フォーム「メインパネル」および「検索」を作成します。

フォームを先に作って、のちにマクロで連続させます。

①下図のようなメインパネルを作りましょう。



「フォーム」



「新規作成」



フォームの新規作成画面で「デザインビュー」
基になるテーブルクエリは空白



「OK」

ツールボックスを開き、ラベル（「Aa」）を
クリック



「難病患者情報メインパネル」のラ
ベルを作成します。



ツールボックス「コマンドボタン」
をクリック



コマンドボタンを作ります。



コマンドボタンウィザード起動しますが、こ
こでは使用しませんので、「キャンセル」
をクリックします。

*ウィザードを使用すると自動的にモジュールが作
られますが、ここでは、プログラムの構造を理解
するために、使用しません。

作ったボタンにカーソルを合わせ右クリック

↓
「プロパティ」

↓
名前:「検索」
タイトル:「検索」と書き換え。

同様に「終了」のボタンを作成し、名前や
タイトルを書き換えてください。

↓
「ファイル」
↓
「名前を付けて保存」

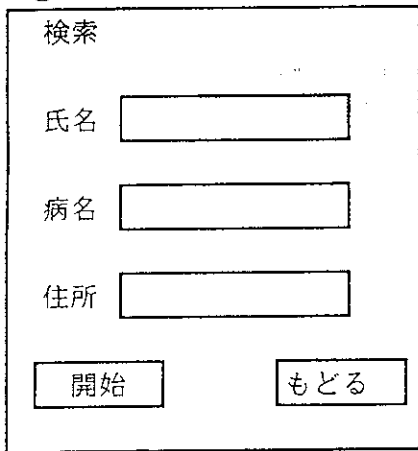
↓
「F_メインパネル」と名前をつけます。

新しいフォームができました。



② 次に下図のような検索画面を作りましょう。

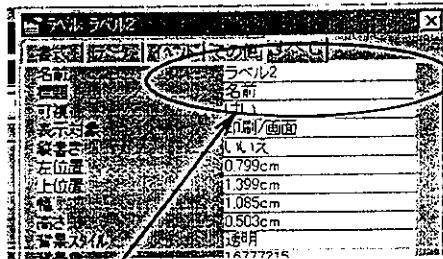
①と同様に「フォーム」→「新規作成」で作成開始。



(ア) 「検索」のラベルを作成します。

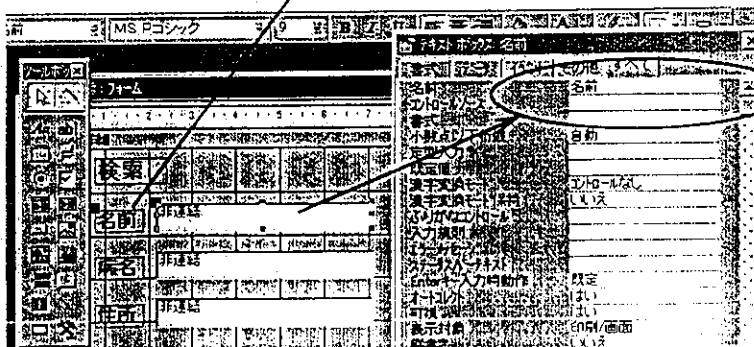
(イ) 「氏名」、「病名」、「住所」はテキストボックス
を使って作成します。

名前を「名前」「病名」「住所」とします。



*テキストボックスはテキストボックスとラベルを同
時に作成します。ラベルの名前、標題、
テキストボックスの名前、コントロールの意味
を考えてください。

テキストボックスのコントロールソースは
ありません。デザインビューで
は非連結と表示されます。



(ウ) 「開始」、「もどる」は①と同様の手法でボタンを作成します。